

2020 とその先の「稼ぐ東京」に向けて

東京都知事 小池 百合子

(この記事は、2019年4月23日「金融問題勉強会(経営同友会と共同)」をもとに要約の上、作成しています)

平成もわずかとなりました。経済企画庁の政務次官をやっている頃のボスが堺屋太一さんでした。堺屋さんは、平成時代というのは「**3Y**」だとおっしゃっていました。少し悲観的な言い方ですが、「夢がない」、「勇気がない」、「やる気がない」の3Yです。考えてみればデフレが続いていました。新しい令和の時代は、それとは反対に「夢がある」、「勇気がある」、「やる気がある」を目指して、東京都として何をしていくかを考えています。

世界の都市総合力ランキング(Global Power City Index, GPCI)で、東京は3位となっていますが、4位のパリ、5位のシンガポールもすぐに追いついてくる勢いです。私は知事として「3つのシティ」を作るということを、ずっと言い続けてきました。「セーフシティ」、「ダイバーシティ」、「スマートシティ」です。この3つはSDGs(持続可能な開発目標)のアジェンダを網羅しているものだと思います。

また、東京大改革と称して、いくつかのことを既に取り組みました。まずは、新たな条例の制定です。受動喫煙防止条例、児童虐待防止条例、無電柱化推進条例、人権尊重条例を制定しました。次に、観光政策を展開し、東京を訪れた外国人旅行者数は2017年時点で過去最多の1,377万人となりました。爆買いは減ったようですが、旅行者による消費額も、過去最高の1兆1,258億円でした。

この先、ラグビーワールドカップ2019、東京2020がありますが、これから考えるべきは2020大会以降がどうなっていくか、どうすべきかということです。そこで3つの柱を立てています。1つ目は「稼ぐ東京」、2つ目は「人と人をつないでいく」、3つ目は「都市力の強化」です。東京の主な政策として、「稼ぐ東京」について詳しく話したいと思います。

「国際金融都市としての東京」を目指し、官民一体の金融プロモーション組織を設立しました。元日銀副総裁の中曽さんをトップにして、海外向けのプロモーションを進めていきます。またESG(Environment Social Governance)ファンドを活用し、エコ投資やソーシャル投資を行っています。また、空飛ぶ車や、目が見えない人が目の見えるような注射などの画期的で将来性のある開発は資金がなくなると、シリコンバレーへ行ってしまう、そちらで成功することが多いようです。そういった開発を東京で見つけ、育てて、そして稼ぐ東京の象徴にしていきたいと思っています。また、Society5.0として、中でもMaas(Mobility as a

service)に力を入れていき、渋滞箇所の解消などを行います。それから、東京をモデルにデジタル地域通貨を実施していきます。

次にベンチャーの育成です。先ほど言った3Yは教育に関わってくることもあると思いますので、起業家精神の教育にも取り組みます。TOKYO創業ステーションを丸の内にも展開しました。中国の深圳では、毎日1,000件のベンチャー企業が生まれると言われています。東京では年間で1,000件生まれるような流れを作っていきたいです。それから、ユニコーン企業や女性起業家の成長などの支援も行っています。また、中小企業・小規模企業振興条例や中小企業振興ビジョンを作り、黒字企業割合を50%超、都内全ての自治体の経済成長率プラスなどの目標を立てて、活性化を図っています。

観光の話に戻りますが、2020年のパラリンピックを機に、バリアフリー化をより良くしていくことを進めています。訪都(東京)外国人旅行者数年間2,500万人、旅行者による消費額2.7兆円が2020年の目標です。それから女性の活躍推進とテレワークの推進です。これらを達成し、「成長」「成熟」することで、新たな時代、明るい東京の姿を提示していきたいと思います。

以上